

中郷地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成24年11月9日（金） 19:00～20:45

2 会 場 中郷地区公民館

3 出席者 地元出席者 27名

市側出席者 20名

竹内市長、深澤副市長、羽場総務部長、堀防災調整監、山根農林水産部長、大田経済観光部次長、星見都市整備部次長、江本教育委員会事務局次長、久野中山間地域振興課長、富山危機管理課参事、尾室企画推進部次長

<青谷町総合支所>小林支所長（司会）、土橋副支所長、秋田市民福祉課長、中宇地産業建設課長、谷岡水道局青谷営業所長、大前地域振興課課長補佐

<事務局>安本協働推進課長、谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

4 「地域防災計画の見直し」について

スクリーンに基づき説明（危機管理課参事）

5 「協働のまちづくり」についての報告

（地区公民館長） ※スクリーンに基づき説明

はじめに、まちづくり協議会の設立経過と24年度の事業について簡単に報告します。まちづくり協議会ですが、平成20年6月28日に設立準備会が設置され、3回にわたり協議されて、10月18日に設立されました。次に、平成21年2月21日、中郷地区まちづくり計画作成委員会を設置し、スタートしました。5月にアンケート調査を実施し、そのアンケートに基づいて、11月27日、中郷地区まちづくり計画書を策定しています。地域づくりの目指す方向として、「みんなでささえあい 思いやり豊かで安全なまちづくりをめざして」と決めました。キャッチフレーズは、運動会に募集した「中郷のみんなガンバレ オー！！」という作品を上げています。

こども茶道クラブの生徒さんが新春のお茶席で披露されました。中郷を語る会は、後の懇親会も盛会でした。次はこいのぼりの掲揚です。40匹余りのコイが元気よく泳いでいる様子を見ると、きょうも頑張ろうという気持ちになります。作業終了後、子供と大人が一緒になってグラウンドゴルフを行いました。中郷地区敬老会では、最後に、みんなでふるさとを合唱して閉会することにしています。こいのぼりをおろして撤収した後は、毎年近くの城山公園の草刈りをしています。ちまきづくり交流会もあります。夏休みの子供たちが、大人の指導により自分のはしやめんつゆを入れる竹コップをつくります。こいのぼりに使った元気な竹をそうめん流しに使い、楽しくおいしそうに食べています。1万㎡以上の中郷グラウンドの整備は、運動会の2週間前に行いました。運動会では地域の皆さんがよろこぶ音頭を踊りました。ことしは台風の影響もあり、12年ぶりに体育館で行いました。剪定講習と兼ねて、庭園をきれいにしていただきました。池つきの立派な庭園、校舎が撤去され中庭が正面になりました。地域の憩いの場として広く活用していきたいと

考えます。あさって11月11日には、中郷まつりを盛大に行うよう計画しています。皆さん、ぜひ参加、ご来場をお待ちしています。小学6年生がソーラン節を踊ります。いまは体育館の方でリハーサルを行っています。事業については以上ですが、体育会、老人会、健康づくり推進委員会、公民館と共催して、グラウンドゴルフや健康ウォーキングなど多くの事業を行っています。

次に、きょうの本題、地区の協働まちづくりについての報告です。順調に進んでいる取り組みとして中郷まつりについて報告します。演芸部、展示部、バザー部とありますが、すべての正副部長さんが自分でよく内容を把握していて、長く務められ、交代されてもスムーズに実施できています。音響の係についても、運動会もそうですが、全部任せられる人、グループがいます。また、演芸の出演団体、作品出品、バザー出店など、祭り全体に私たちがやらなければという気持ちがよく伝わってきます。そして、各区長の協力が大きいです。やはり地域のお祭りはそれぞれの顔がよく見えて楽しいものです。

補足報告として、公民館だよりに掲載した4集落の祭りについて報告します。まず、吉川集落の祭りです。4月15日、幹周り1メートル以上の桜の木、約50本の下で絶好の花見日和となり、12時30分から始められ、楽しく会話が弾みました。また、小地域懇談会においても、吉川区長さんから桜の苗木を植えられるための経過等を発表されました。次は、城山団地祭です。7月14日、団地中央広場に集まり、午前6時30分から子供みこしで幕をあげ、ようこそ音頭や、ラムネ、ビールの早飲み競争など、団地の枠を超えての交流を深められました。次、栄町納涼祭です。地区で一番大きな集落、造成団地住宅です。7月21日、班対抗玉入れと区民の踊りの様子です。最後はカラオケで夏の夕べを過ごされました。最後に露谷夏祭りです。8月14日午後5時から、屋台のバーベキューを初め、名物の焼きそばなどたくさんのごちそうがあります。バルーンアート講師による風船創作や金魚すくいがありました。記念すべき10回目ということです。これらのことが中郷まつりの源になっていると思います。

次に、思うように進んでいない取り組みです。まちづくり計画に向けて専門部会を編成して、役員会、総会などに立案するよう計画していますが、必要と認めつつも諸事情でまだ部会を設けていません。

次は課題、問題点です。中山間集落の実態及び公民館事業等を進める上で、どこも同じような課題と問題点があると思います。主な点について報告します。少子高齢化とともに、人口の減少です。保育所、小・中学校の統合により中郷地域に子供たちが集う機会が少なくなりました。やはり、子供は地域の宝、笑い声がするだけでも活力を感じます。また何ととっても人づくり、リーダーの育成だと思います。あと各集落との連携強化。小集落が多い。12集落ありますが、30世帯以下の部落が7集落と半分以上です。30から49世帯が2集落、50世帯以上が3集落となっています。昔の村社会のよさ、助け合い、行事の継続、継承の必要性を感じます。災害時の集落を超えた取り組みが必要だと思います。その他、まだたくさんあると思います。中国の論語の中で、仁とは、人としての大切さ、優しい心、思いやりをあらわすそうです。その中で孔子が、いい国をつくるにはよい人物が必要、欲しいと説いています。世の中、幾ら変わっても人づくり、リーダーの育成が一番大切ではないでしょうか。

次、さらなる発展を目指してです。「行政の格段の支援を得て」という部分は、この席

で2年前、前館長が、わずか11字ですが偉大な意味を持っていて、と市長に住民の熱い思いを述べられています。私も全く同じ思いです。文句を言うだけでは人も社会も動きません。地域を元気にする、活性化して再生するには住民の情熱と行動力しかないと思います。協働のまちづくりとあります。協働とは、まさしく行政と車の両輪のように一緒に働くとの意味だと思えます。再度、1,328人の地区民を代表して、地区民の思いを、次の議題である中郷地区の課題について前向きな言葉をよろしく、よろしくお願いします。

最後になりましたが、2年前の課題でありました旧中郷小学校の校舎解体撤去について、昨年度工事完了していただきました。有言実行、感謝の言葉しかありません。市長、ありがとうございました。

6 地域の課題についての市長等との意見交換

過疎対策について（特に雇用の創出）

空き家が増え、子供は激減し、高齢者ばかりになっているが高齢のためほとんど外出しない。2、3日、村人に会わないこともある。若者が生活出来る雇用がなければ近い将来、村が消滅する。

全国的に過疎化が進行している事は承知しているが、この地域の集落が限界集落となることは避けたい。

我々が生活する青谷町は過疎法に基づき過疎地域指定を受けている。

現在に至る対策とその効果及び今後の計画、特に若者が定着出来る、安定した雇用の創出についてどのように進めていくのか聞きたい。

<担当部局の所見等>

【企画推進部】

[協働で進める過疎対策]

過疎地域の振興対策は、鳥取市過疎地域自立促進計画に位置付け、有利な財源である過疎債を活用して生産基盤や道路、生活環境、子育て・教育環境、福祉・医療環境の整備など、住民の安心安全な生活を確保し人口流出を減少させるためのさまざまなハード事業を中心に推進してきました。

平成22年度からソフト事業にも過疎債が活用できるよう適用範囲が拡大され、この制度を利用し、佐治町では小学生の山村生活体験研修の受入、用瀬町では、集落の100年後を描いた計画づくりなど、地域住民が参画して自らの地域を元気にする取り組みが活発に行われています。

本市では、輝く中山間地域創出モデル事業による活動助成やとっとりふるさと元気塾によるリーダーの育成、中山間地域振興推進員による住民活動のサポートなど、地域住民が主体となって地域を活性化していく活動を積極的に支援する体制を整備しています。

青谷町エリアは本市の西の玄関口であり、特色ある自然や歴史・伝統的な資源を豊富に持つ地域です。中郷地区においては、食味豊かな米やイチゴ栽培などが有名ですが、今後、ビワ茶の特産化に向けた取り組みが始まると伺っており大きく期待しています。

[移住定住者の受入促進]

本市では、若者の市外流出を防ぐとともに、鳥取市UJIターン若者就職奨励金制度を設けて若者の本市への転入を強く促しています。また、本市への移住定住を希望されるかたに住居・就職等に関する支援を行うワンストップ相談窓口を開設しており、平成18年度の窓口開設以降、現在までの移住定住者は約900人400世帯にのぼり、内60世帯は空家に入居されています。

移住定住者はこれからの地域づくりの良きパートナーであり、地域の活性化に向け、空家登録及び新たな住民を迎え入れる雰囲気づくりに積極的な協力をお願いします。

【経済観光部】

鳥取市の経済、雇用情勢は大変厳しい状況が続いていますが、平成22年に「鳥取市雇用創造戦略方針」を策定し、企業誘致をはじめとした様々な雇用対策に取り組んでいるところです。

企業誘致においては、鳥取自動車道等の開通を踏まえ積極的に取り組んでいます。昨年は10件の企業が本市へ進出し、297人の雇用を見込んでいます。さらに今年度は上半期で4件の企業進出があり、870人の雇用を見込んでいます。

また、求職者の地元就職支援を強力に推進するため、雇用相談窓口の体制を強化し、若者の雇用対策として、職場体験実習を通して就職につなげる「とっとり若者インターンシップ事業」などを実施しています。

本年10月に若者の地元就職奨励金を創設するとともに、地元就職支援相談員を東京、大阪、本市に配置し、UJIターン者・地元大学等卒業生等の市内就職に力を入れています。

青谷町中郷地区は、山陰自動車道の青谷インターからも近く、便利な立地にあります。青谷インターから鳥取インター間につきましては、今後も国に対して早期整備を積極的に働きかけ、平成20年代の全線開通を目指していきたいと考えております。山陰自動車道の開通は、経済や観光面において人モノの活発な交流が進み、地域活性化が見込まれるとともに、重要な生活道路として通勤が容易になるとともに、災害対応や救急車両搬送も改善されます。生活基盤の整備とともに、企業誘致による雇用創造を推進し、若者が定着し安心して暮らせるまちづくりを図っていくことが重要であると考えています。

(中山間地域振興課長)

過疎対策についてということで、非常に重たい課題です。空き家がふえているし、少子高齢化、村が消滅してくるということです。中山間地域振興課が、協働で進める過疎対策ということで書かせてもらっています。鳥取市内では佐治、用瀬、青谷が過疎地域として指定されています。過疎地域の振興対策は、鳥取市過疎地域自立促進計画に位置づけられ、有利な財源である過疎債というのを活用して、生産基盤、道路、生活環境、子育て・教育環境、福祉・医療環境の整備など、住民の安全安心な生活を確保し、人口流出を減少させるためのさまざまなハード事業を中心に推進してきました。この過疎債ですが、平成22年度からハード面だけではなくてソフト事業にも活用できるということで、適用範囲が拡大されています。

この制度を利用して、佐治町では、小学生の山村生活体験研修を受け入れ、ことし、市

街地の9つの小学校から390名ばかりの子どもたちが佐治町での山村生活の体験研修に入っています。用瀬町の岡集落というところでは、集落みずからが100年後を描いた安全安心な計画づくりをされています。5月ごろでしたでしょうか、新聞等で紹介がありました。そういった、地域住民がみずから参画して地域を元気にする取り組みが、それぞれ活発に行われています。

本市では、輝く中山間地域創出モデル事業というソフト事業ですが、活動助成やとっとりふるさと元気塾によるリーダーの養成、育成、また中山間地域振興推進員による住民活動のサポートなど、地域住民が主体となって地域を活性化していく活動を、積極的に支援する体制を整備しています。この青谷町エリアは本市の西の玄関口であり、特色ある自然や歴史・伝統的な資源を豊富に持つ地域です。中郷地区においては、食味豊かな米やイチゴ栽培などが有名ですが、今後、ビワの葉を利用したビワ茶の特産化に向けた取り組みが始まると伺っており、大きく期待しています。

続きまして、移住定住の受け入れ促進ということです。鳥取市は移住定住を一生懸命進めており、若者の市外流出を防ぐとともに、鳥取市UJIターン若者就職奨励金制度を設けて、若者の本市への転入を強く促しています。また、本市への移住定住を希望されるかたには、移住先であるとか就職先等の支援のワンストップ相談窓口を、中山間地域振興課に設けて対応しています。平成18年9月1日の窓口開設以来現在まで、鳥取市への移住定住者は約900人、400世帯に上っています。そのうち60世帯は、鳥取全域ですが市内の空き家に入居されています。

移住定住者は、これからの地域づくりのよきパートナーになっていただけたらと思いますし、地域の活性化に向け、空き家の登録や地域や集落で新たな住民を受け入れる雰囲気づくりに、積極的に協力をお願いしたいと思っています。

(経済観光部次長)

鳥取市の経済、雇用情勢は大変厳しいものがあります。その中で、鳥取市では平成22年、鳥取市雇用創造戦略方針を策定して、平成22年度から25年までの4年間に5,000人以上の雇用の場をつくるということを目指して取り組んでいます。その中で大きな4つの柱を設けています。①いまあるいろんな自然エネルギーとか成長産業における雇用をつかって、産業を元気にしていこうという観点、②産業全般の底上げによる雇用創出、③若者の雇用の場の確保、それから④求職側と求人側による円滑なマッチング、という柱を立てて各事業を進めているところです。

特に、企業誘致におきまして、昨年度は10件の企業に鳥取市に進出していただいています。297人がその雇用計画ですし、さらに今年度上半期でも、JCB、ヤマト運輸など4件の企業に進出していただきまして、870人の雇用を見込んでいます。こういう産業をつかっていたり、雇用の枠を増やしていたりする取り組みと、その一方で、求職者に対しての地元就職支援を強力に推進しているところです。相談窓口のコーディネーターを増員しまして、雇用相談の窓口の体制を強化したり、施策としましても、若いかたに職場体験をまず実習してもらって就職につなげていただこうという、とっとり若者インターンシップ事業などを実施したりしているところです。

それと、特に本年10月には、鳥取に若いかたがたにどんどん、外に出られたかたも含

めて戻っていただくということで、地元就職奨励金というものを創設しました。これは、外に出られてU J Iターンで鳥取に帰られて就職する場合は1人当たり10万円、1世帯当たり20万円を限度、鳥取の大学なり専門学校に行かれて鳥取に就職される場合は5万円ということで、多くのかたに帰っていただき、就職していただきたいという奨励金を設けています。それとあわせて、地元就職の支援体制を強化するために、東京、大阪と本市に支援員を配置しまして、U J Iターンなり地元大学等の卒業生等の市内就職に力を入れているところです。

中郷地区については、山陰自動車道の青谷インターからも大変近く、便利な立地にあります。青谷インターから鳥取インター間について、今後も国に対して早期整備を積極的に働きかけ、平成20年代の全線開通を目指していきたいと考えています。山陰自動車道の開通は、経済や観光面においても人、物の活発な交流が進むものと考えています。そういう地域活性化が見込まれるとともに、重要な生活道路として通勤が容易になり、災害対応や緊急車両搬送も改善されます。生活基盤の整備とともに、企業誘致なりいまある地元企業の活性化なり、そういうことにも力を入れて雇用創造に結びつけていきたいと考えています。それで若者が定着し、安心して暮らせるまちづくりについて図っていくということ、地元の商工会とも連携しながら取り組んでいきたいと思えます。

(地元意見)

若者が定着できるように雇用の創出はどうでしょうかというお尋ねをしたところ、いろんなことをやっています、雇用の創出が大事ですよ、という答えが返ってきています。そのとおりですよ。もう一步踏み込んでほしいのですが、具体的に自分が考えていることをお話ししたいと思えます。

私に母がいます、かなりの高齢なのですが、いま老人施設に入れています。割合、都会に比べたら簡単に入れました。これは都会ではちょっとあり得ないようなスピードで入れました。これは鳥取のメリットで、都市部においてはできないことなので、例えば都市部のそういう施設とか病院とかを誘致して、鳥取の方に関連施設をつくることによって、向こうでは入所できないかたがこちらに呼び込むと。そうすれば当然、就業者というか、ヘルパーや関連する人たちが24時間働いていますから、相当な雇用の創出ができるのではないかと、そんなことを考えているのですが。そのあたり、例えば施設だけではなくても、そういう観点から考えて、向こうでできにくい、入りにくいものをこちらにつくってもらうということをやってらっしゃるのか、それともこれからはどうなのかということも考えてほしいなど。そうすれば雇用も増えて、人口も、住民票を移すのかもしれないので、住民票の関連するものも増えていくのではないかと考えています。考えてみていただければと思えます。

(竹内市長)

高齢者のかたの福祉の施設、いろんな種類があって、特別養護老人ホームといったものもありますし、要介護度がそこまで高くないかたの場合は、施設で24時間生活を見てもらうという体制でなくても、一番軽いかたですと在宅介護の状態ですとデイサービスに行くとか、あるいはグループホームとかその中間ぐらいのいろんな施設があります。そういう施

設が鳥取市も徐々に整ってきています。

こういう施設をつくる場合には、これは公共施設としてつくるのではなくて、民間の社会福祉法人がつくるわけですね。したがって、例えば都会の高齢者にたくさん来てもらったりすると、そういう施設の整備が賄えるかどうかという問題が常にあるのです。国などが補助金も出します。多くの場合市も出したりすることがありますが、補助金があるにせよ、やっぱり社会福祉法人がみずからやるという意味と、経済力というか資産というか、財政力がないとできないという問題もあります。

そこは、応援するからやってくださいよという持ちかけも公共団体の側からはできるのですが、次の問題は、そういうことで多くの高齢者のかたを都会から呼んでくると、専門的に計算したり考えを整理したりしているわけではないのですが、介護保険料とか、それからその人が国民健康保険であれば国民健康保険の医療費とかそういうものが、どうしても増大してきます。そうすると、今度はそれを地域のみんで負担することになります。介護保険なら40歳以上とか、国民健康保険であれば国民健康保険の加入者ですね。そうすると、それが非常に重い負担となって、施設に入る人以外のところに及んでくるのです。そのことは、地域の人のためには上げたくないが上げざるを得ないみたいな、公共団体としてもいつも苦慮している問題です。医療費や介護保険は個人が負担される部分もあるし、国、県、市が負担する部分があるような仕組みですので、個人負担分はともかく、全体の経費、介護保険の事業費あるいは国民健康保険、そういうものがふえてくると市民にも重くのしかかるといところが問題な点です。だから、福祉施設が発達したところは介護保険料が高いというのが往々にしてあります。県内でいえば、米子市は鳥取市よりも高いですが、それは施設がたくさんあるからだというふうにも見られるわけです。

雇用の創出はおっしゃるとおりで、やはり福祉施設は、介護士さんとか、そういった雇用の場になっているわけですね。食事などをつくってサービスする部分もあります。ですから、1つの施設があると10人とか20人の雇用、あるいはもっと多くの雇用もできたりして、そういったことはプラスの面ですが、もう一つマイナスの要素もあるということも考え合わせる必要があります。ですから、基本的には、福祉施設はその地域のニーズに合わせて整備をするというのを基本として、ほかの地域からは福祉施設のお世話にならないような元気なかたとか、高齢者でも自立して生活できるかた、いろんな特技とか能力を持っているかた、専門的な職人さんなどでもいいのですが、そういうかたに来てもらうことを実は願っているという状況はあります。どんな人でも、UターンとかIターンの人に来ていただくことを歓迎していますが、やはり地域でそれなりに元気で活躍していただくかたを、できるだけ受け入れたいなと思っているところです。

もう一つだけ申し上げますと、いま、鳥取市全体で考えると、やっぱり福祉の施設とか福祉のサービスは、ニーズに比べて供給が少ないのです。まずは何といたっても同じ鳥取市に住んでいるかたがたで、これからは高齢者、65歳以上の方がどんどんふえてきますから、そういう人たち向けに整備をするのが優先順位が高いし、まずもってすべきことだと思います。

決して間違ったことをおっしゃっているとは私は全然思っていないくて、一つのいい提案だとは思いますが、そういうことをいろいろ考えながらやらないと、福祉施設をつくって高齢者を受け入れれば雇用がふえるからいいだろうとだけ考えると、ほかの副作用がいろ

いろあるということもあります。厳密に計算して申し上げているのではないので恐縮ですが、国民健康保険料や介護保険料の負担増は年金から天引きになったりして大変ですので、やっぱり慎重に運ばないといけないという理解をしています。

(地元意見)

そうですね。市長さんのおっしゃるように、雇用の創出だけではなくて保険料の増大についてもバランスを考えないといけないという趣旨はよくわかります。

私は、最初申し上げたのは、都会の方の施設の経営者がこちらに施設をつくるという前提です。それと、高齢者がこちらに来て住民票を移したら、収入がないからたいしたことないのだろうが、負担の方がふえるなという市長さんの指摘ですが、そういうことであれば、短期入所だけに限定すれば住民票は移りません。向こうから来る人は短期入所だけだと、住民票は移らない、そうすれば保険料は向こう持ちでしょう。そういうこともあり得るのかなと。これからいろいろ考えてみていただきたいと思います。

中郷地区公民館の新築及び周辺道路の拡幅改良と除雪対応について

現地区公民館（多目的研修センター、約300㎡）は、昭和55年に建設され現在に至っています。中郷地区民が地区公民館・グラウンド・体育館等を拠点として、さまざまな事業・交流により地区の活性化を図っているところです。

現在、耐震診断を実施しているところです。防災上、安心・安全なまちづくりを目指すためにも、新築移転を求める声が高まっています。多彩なニーズに応える複合的な機能を持つ施設を、避難施設である体育館近くに新築をしていただけることが、中郷地区民の願いです。併せて周辺道路の拡幅改良もお願いします。

また、現在の公民館は、県道側及び市道側から奥まった場所に位置しております。この取り付け道路の延長距離が長いこと、降雪時、道路の除雪は、公民館職員が貸与されている除雪機で対応しても困難を極めております。このため、除雪車で除雪を要望したところ、どの地区についても貸与してある除雪機とボランティアで除雪しているので出来ない旨の回答がありました。しかし、近隣地区の公民館と接道状況を確認したところ中郷地区の公民館ほど長い取付道路はありません。

現在の中郷地区公民館の立地条件をご理解の上、新築移転が出来るまでの間、除雪車での対応をお願いします。

<担当部局の所見等>

【企画推進部】

中郷地区公民館は昭和55年11月に建築され、建築後32年が経過していますが、公民館の設備等の整備については、地域の要望に対応し、改善に努めています。

中郷地区公民館は新耐震基準を満たしていないため、現在、他の21館を含め、平成24年度末を目途に耐震診断を実施中です。耐震診断結果に基づき、改築、改修を含めた対応方針を策定していきます。

【都市整備部】

(周辺道路の拡幅改良)

公民館周辺道路の改良については、市道西町亀尻線(写真①)の整備を平成22年度に完了しています。また、熊廻走出線の一部(写真②)及び亀尻山田線についても整備計画路線と位置付けており、亀尻山田線については平成23年度に亀尻集落中間付近を部分的に実施しています。今後も青谷地域の優先順位を考えながら整備を進めたいと考えています。

(周辺道路の除雪)

本市では、すべての市道の除雪を行うことは困難なため、バス路線や主要幹線等を優先して除雪を行っています。また、各地区公民館や集落へ小型除雪機を貸与し地域の除雪へ活用していただいているところであり、公民館周辺の除雪についても、除雪延長は異なるものの、利用に必要な周辺の除雪については各公民館へお願いしています。

中郷地区公民館周辺は、県道倉吉川上青谷線、市道亀尻山田線、および市道城山団地線が除雪路線になっています。この除雪路線から公民館の入口までは3路線ありますが、路線を絞り込み、地域で除雪可能な路線を検討して頂きたいと思えます。

(協働推進課長)

私の方からは、中郷地区公民館の新築についてご説明させていただきます。

この中郷地区公民館ですが、昭和55年度に建築されて、現在32年が経過しているところです。ちなみに、本市に61の地区公民館がありますが、その中で古い方から22番目の建物ということです。この中郷地区公民館の設備の整備等については、地域のご要望等もこれまで伺いをしてきたところですが、平成21年度にはトイレの洋式化ですとか、それから事務室の拡張、それからこの部屋の畳の表替えなどもさせていただいたと思っています。そういうことで、できるところから改善等も取り組んでいるところです。

それから、この公民館は55年度建築ということで、新耐震基準を満たしていませんので、現在、耐震診断を実施中です。耐震診断は、市内全部で22の公民館で行っていて、診断の結果は今年度末、3月ぐらいまでには出ることになっています。新築をとというご要望をいただいておりますが、耐震診断の結果が出ましてから、この公民館の整備については対応方針を考えていきたいと考えています。

あわせて、横風が強い雨のときでしょうか、この建物に雨がしみ込んでくるということも伺っていますが、それらも耐震診断の結果が出ましてからあわせて検討させていただけたらと考えていますので、いましばらくお待ちいただきたいと思います。

(都市整備部次長)

都市整備部としては、2点の回答をさせていただきます。

まず1点目、周辺道路の拡幅改良ということですが、公民館周辺道路の改良については、市道西町亀尻線の整備を平成22年度に完了しています。また、熊廻走出線の一部及び亀尻山田線についても整備計画路線と位置づけていまして、亀尻山田線については、平成23年度に亀尻集落の中ほどですが、部分的に実施させていただいております。今後も、青谷

地域の優先順位を考えながら整備を進めたいと考えています。

続きまして、周辺道路の除雪についてですが、本市では、すべての市道の除雪を行うことは困難でありまして、バス路線や主要幹線等を優先して除雪を行っています。また、各地区の公民館や集落へ小型除雪機を貸与し、地域の除雪へ活用していただいているところですが、公民館周辺の除雪についても、除雪延長は異なるものの、利用に必要な周辺の除雪については各公民館へお願いしています。

中郷地区の公民館周辺は、県道倉吉川上青谷線、市道亀尻山田線及び市道城山団地線が除雪路線になっています。この除雪路線から公民館の入り口までは3路線ありますが、路線を絞り込んでいただき、地域で除雪可能な路線を検討のうえ、除雪をしていただきたいと思います。



(地区公民館長)

館長として一言、経過とお願いをします。

ご存じのとおり、青谷町には5つの公民館があります。青谷地区は、就業改善センターが大規模改修工事をされています。他の4地区では、多目的研修センターが昭和56年、55年と建築されました。現在、日置、勝部地区におきましては旧小学校に移転されています。日置谷地区も移転しようと思えばいつでも移転できる状態です。

そこで中郷地区公民館ですが、事務室の雨漏りとともに、西の窓際は1階、2階とも現在雨がしみ込んでくる状態です。移転する建物はありません。逆に言えば、長い間他校区は鉄筋校舎で、中郷だけが木造校舎であったということです。備品の保管にも困っています。せめて、合併特例債が適用できる最後の年度までには公民館の新築をお願いします。以上は経過ですので、お願いということで答は要りません。

次は、鳥取市長さんがよくわかっている、すぐに対処すると言われると思い、地域課題には記載していません。ただ、唯一残していただきました音楽室の塗装工事についてのお願いです。机とか各備品を保管しています。早く塗装すれば10年以上長く持つと言われています。ぜひ優先的に対処をするとの答えだけをお願いします。

(教育委員会事務局次長)

音楽室とおっしゃいますのは公民館ですか。

(地区公民館長)

いや、学校です。ただ一つ残してもらった音楽室に、いまは備品を入れている状態です。塗装をお願いします。

(教育委員会事務局次長)

塗装はどこを。屋根ですか、側面ですか。

(地区公民館長)

鉄骨の側面です。

(教育委員会事務局次長)

いま現在、もうこれは学校施設というポジションから離れていまして、行政用語ですが普通財産ということになります。担当しているのは生涯学習課だと思います。私もここではお答えできませんので、地区要望か何かに上げていただければ、また文面で回答させていただきます。

(竹内市長)

いやいや、いま、公民館長さんから具体的な話がありました。地区要望でなくても、それは具体的にこういう正式な場でお話があったので、現地状況を確認して、塗装が必要だということになれば行くと。そのほか、別のことがいいのではないかということがあればまた。とにかく、状況と対応策を検討します。それはすぐにやりますから、答えを早く出せるようにしたいと思います。

もう一つの要望というか、ご意見のお話ですが、青谷の地域の中の地区公民館の様子がいろいろ変わってきましたね、小学校統合を一つの契機にして。言われるように、勝部とか日置の地区公民館は、小学校の鉄筋校舎を改修して地区公民館にしています。そのことは私もよく承知していますし、それぞれ地域のかたの要望をお聞きしながら必要な改修を行って、耐震性も確保している状況があります。中郷の地区公民館についても耐震診断をしているところですので、基本的にはそれを踏まえて対応を考えるということは、お答えしたとおりです。合併特例債は平成31年度まで適用があるのですが、そこまでの間に、今回の要望にありますように新築という地域の声が出ているということは十分認識をしています。耐震診断の結果も踏まえながら、先ほどからお話のあるような中郷小学校の特別教室の部分が残っていますよね。体育館もあります。だから、そういったものとの関連も考えて今後どういうふうにするのか。地区公民館そのものの今後の計画については、また検討の結果をお話ししていきたいと思います。そういったところでご理解をいただきたいと思います。

<補足：生涯学習課>

補修をすることにより建物の長寿命化を図ることができると考えますので、H25年度で対応する方針としました。

(地元意見)

ここの公民館は、職員さんが増えることによって事務所が狭くなって、以前より若干狭くなっています。というのが、調理室を取り込んで事務室にしたということがありまして、そのことをまず1点押さえていただきたいと思います。

それから以前、もとの中郷小学校の校舎を壊すに当たって、校舎に付随して要らない建物が下側にありました。コンピューター室か何かがあったところだと思いますが、そこを改造して、当時は地区公民館の調理室みたいなものがありまして、そこで料理講習などたくさん利用していらっしやいました。危険建物で、小学校を壊すにあたって一緒に壊してもらおうという話が出ていましたが、そのときに婦人のかたから強く言われたのが、料理講習ができなくなると。壊すと同時に新しく調理ができるような施設が欲しいなという要望があったのですが、いまはそんなことは言うな、とにかく早く壊してもらう方が大事なので、それは第2の作戦としてまたみんな考えていけばいいから、ということで結局口を閉じたわけです。そういうことも踏まえていただきたい。

ここには、避難施設である体育館近くに新築をしていただくことが中郷地区民の願いです、と書いてあります。いま耐震診断をしていただいているのは大変ありがたいのですが、ここに書いてあることからすれば、体育館の近くに公民館を持って行ってほしい、利便性を高めるというのですか、そういうことが要望として上がっているような気がしまして、それだったらこの耐震診断をしてここを耐震化してもこの要望には沿わないのではないかなという気がします。そういうことを総合して、今後の中郷地区の公民館のあり方というのを、どうなるかわかりませんが、一回考えていただける機会があったらなと思って、意見として述べさせていただきます。

(支所長)

いまは意見としてお伺いしておけばよろしいのでしょうか。

(地元意見)

はい。地区民の意見として聞いてもらっていたらいいです。どうせ耐震化の診断をしておられるのですから、即答は難しいと思います。ただ、要望として、とり方が違うのではないかなと思ったものですから。

7 市政の課題についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

いま、城山団地は12件の空き家があります。それで、もうかなりのところがぼろぼろになっています。今回の小学校を壊されたときの廊下の板などは、いまの城山団地よりもはるかに程度がいいものだと思います。結果論になりますが、いまの城山団地の廊下とかいうか、板張りのところへそういうものを使っていたら。僕の家も風呂場を出たところの板張りなどがすごいことになっています。しかし国にお金がない、県にお金がない、市にお金がない。青谷町の支所なども大変だと思います。学校の廊下の板はかなりいいものが使ってありましたので、もったいなかったなと思いました。

この学校のところにも植木鉢、プランターがたくさんありました。持って帰って植木鉢の台にしたいような立派なものがありました。それから、小学校の理科室のステンレスの流し台も1個や2個ではなかったです。こういうものは、市の方で欲しい人に1円ででも売られたのか、もしくは全くのごみとして出されたのか、そういうことを聞きたいと思います。

(教育委員会事務局次長)

中郷小学校については昨年解体させていただきました。それで、いまおっしゃったようなことは初めて伺いました。そのときにもし担当者に言っていただけたら、何とか都合できたのですが。はっきり言いましてもう処分しています。もう古いというふうに判断していましたので、処分いたしました。

(地元意見)

いつか言ったことがあるのですよ、ここで。そういう感じのことでしたね。すべて、欲しい物があつたら市の方に言ってくれればという段階でしたのでね。植木鉢の一つだって欲しかったが、盗むわけにはいきませんからね。ええ。買えば300円、400円でしょう。僕は園芸科を出ましたので、正直言って盗みたいぐらい欲しかったです。しかし鳥取市のものから、勝手にちょろまかしたりはできない。それでここで僕、お話ししたのですよ。そうしたら、やっぱり市のものだから、書類上のハンコがどうのこうのというのです。僕は言った本人ですから覚えています。理科室のステンレスの流し台などは本当に、皆さんでも、外にあつたら長靴でも洗ったりできます。

(教育委員会事務局次長)

それはすみませんでした。私は教育総務課長も兼ねていますが、そこまで細かいことは聞いていませんし、もし私の耳に入っていましたら、それは使っていただけるのでしたら差し上げることができたと思うのですが。申しわけなかったです。今後そういうことがありましたら、声をかけていただきましたら対応させていただきます。

(地元意見)

日本海新聞に、庁舎整備について、市長さんの記者会見の内容の要点が書いてありました。最終案が提出される、全員協議会の結果を踏まえて、市長さんの考えを9日に表明したいということでした。市庁舎整備に関しては、執行部は一義的には責任がある立場だという市長さんのご見解です。議会の特別委員会で審議されているわけですが、きょうは方向性を、みずからの考えを発表するということでしたが、実際に、どういう発表の内容だったのでしょうか。

(竹内市長)

庁舎の話は、ご質問もあろうかと思いましたが、私の方からも市政の課題のところでお話ししようと思っていたテーマのひとつです。

きょう9日に全員協議会がありまして、その後特別委員会もあつたようです。全員協議会の後、少し時間があれば記者会見ということも考えましたが、どうしても全員協議会が長引く予想もあつて、特別委員会はその後もあるということになると、この中郷地区の地域づくり懇談会も当然大きな前提としてありましたから、時間的な余裕がないなど。結局、市長コメントという、紙によるコメントを記者クラブの方に出しています。紙1枚のもので大して長い文章ではないので、ちょっと読ませていただきます。

『本日、専門的知見の活用による「鳥取市庁舎耐震改修及び一部増築案に関する調査業務報告書」が中西議長に提出され、その後、市議会の全員協議会で全議員に(1)及び(2)の内容が説明されました。

(1)「現本庁舎の耐震改修及び一部増築案」が示された内容どおり実現できないこと

(2)特別委員会で議論された「変更案」では建設費等が大幅に増加すること

住民投票条例では2つの案が選択肢として示され、5月20日に投票が行われました。市民の多数が選んだ案が内容どおり実現できないとされたことは重大な事態であります』。これは重大な事態と私自身がとらえているし、ここは大きな問題状況が生じているという意味です。『現時点では、市議会による市民への説明など今後の取り組みについて議論が始まった段階であり、市議会としての対応はまだまとまっていない状況です。一方この問題に市民の関心も高まっております。私としても市議会の対応をしっかりと見極めたいと考えています』。まず、重大な事態である、市議会の対応をしっかりと見きわめたい、この2点を述べて、最後のまとめとして、『市庁舎整備は、本市が直面している緊急かつ重要な課題であり、現時点における市政の最重要課題であると言っても言い過ぎではありません。市長として、市民及び市議会と連携をとりながら、引き続きこの課題の解決のために最善の努力を重ねてまいります』というコメントを出しています。

まず、議会の議論を見守るという前段と、後段ではこの問題は緊急かつ重要な課題、市政の最重点課題と言ってもいい内容であり、市長として、市民と市議会の両者と連携をとりながらこの課題の解決に全力で当たりますということをコメントしています。実際には、市議会の議論がきっちり詰まっているならばそれを受けた形で、今後はこういうふうを検討したらどうかということをはっきりと進んでいくことが必要だと考えていたのは事実ですが、そこまで内容が詰まっていないというのが一番大きな状況です。しかし、この課題は解決すべき大きな課題で、しっかり市長としても最善の努力をしますと、決意を述べるコメントを出しています。きっとあすの新聞に載るだろうと思います。

コメントはそういうようなことですが、要は市庁舎の問題は、街の中に何箇所にも分散している状態であったり、あるいは本庁舎も第2庁舎も耐震性に問題があったりすると。このままでほうっておいていいだろうかという課題が依然として解決されていないということです。議会での議論もこれから進んでいくと思いますので、そういうものを見きわめながら具体的な方針を出して、課題の解決を図りたいと思います。この前提としては、住民投票のときには合併特例債が26年度までしか使えないということがあったのですが、5年間延長になったので、それも踏まえて、しっかりこの問題に取り組んで課題解決を図らなければならないと、そういうような思いというか、そういう状況にいま、置かれています。

(地元意見)

よくわかりました。時間的な制約できょうはできなかったということで、改めてまたいつか記者会見をやられるということでしょうか。きょうのコメントで終わられるということになるわけですか。

(竹内市長)

一番近いときでは16日が定例の記者会見ですが、それまでに特別委員会もきょう1回、それから15日に1回あるということです。この問題は1回記者会見すればすべてが述べられるということでもないですし、時間の経過でいろいろ状況が変わってきますので、これからも継続的に、記者会見もそうですし、具体の取り組みを議会などと諮りながら打ち出していくことになろうと思います。

(地元意見)

わかりました。2日の記者会見の最後の方に、重要な問題だということで認識しているという市長さんのお言葉があり、また十分リーダーシップを発揮しながら取りまとめていきたいと、最後は決意を述べておられます。そういうことでよろしくお願ひしたいと思ひます。

(地元意見)

上寺地遺跡のお話ですが、これは県の方で発掘されているのでしょうか、鳥取市の方でしょうか、どういう関係になるのでしょうか。

(教育委員会事務局次長)

これは、私が答えるよりも、会場に専門家がいます。文化財課の主幹が担当しています。

(文化財課主幹)

青谷上寺地遺跡は貴重な遺跡ということで、県と市が共同で事業を実施するというようにしています。発掘調査については県が主導で調査をします。整備、保存、それから活用については、県と市が共同でいま、史跡保存活用協議会を結成してしまひて、地域のかたと一緒に実行委員会をつくって田んぼアートとか、そういう事業などもその中で行っているということで、それについては県と市が事務局で行っているという状況です。

(地元意見)

いままで大体、発掘にどれくらいかかっていますでしょうか。おおよそで。

(文化財課主幹)

最近の県の発掘調査費を覚えていませんので、ちょっとお答えできないのですが。

(竹内市長)

後でお伝えしてあげてください。

<補足：文化財課>

青谷上寺地遺跡の史跡整備を進めるにあたって、整備に必要な考古学データを得るため、発掘調査を鳥取県が行っています。平成23年度の発掘調査事業費は53,204千円で、その財源は国庫補助金21,953千円、県一般財源31,251千円です。

(地元意見)

かなりの莫大なお金がかかっていると思うのですよ。2,000年も前のものが出ていますよね。2,000年いったら大変なものだと思うのですよ。しかし、文化財どうのこうのと言っても、もうちょっとそういうものを活用して、この地域が潤うように。ここの広場などでも、大きなところが空いていますのでね。この地域には民宿が1つあります。旅館も1つあります。こういう偉大な発掘がされているのですが、そういうものが全然、この辺には。この辺の人もみんなおとなしい人ばかりで、何ぞ立ち上げてというのもあるから。

青谷支所からどこかのよその支所に行っておられるようなかたはありますか、職員のかたで。莫大なお金をかけてやっておられるのだから、この地域のために1人でも、上寺地遺跡に当たってもらえるような職員のかたを、大変でしょうが。そういうことは無理でしょうか。

(竹内市長)

確かに、弥生時代の地下の博物館とまで言われていまして、まさに、あの下に弥生の宝物とか、博物館に展示するような貴重な遺物とか、中には人間の人骨などもあったわけですね。脳みそが出てきたとか。これはもっと新しい時代になりますが、ついこの間も山陰道の官道が出てきたということです。偉大な博物館と言われるような状況があるわけですね。そういうようなことで注目を集めます。注目をいつか集めるが、なかなかそれが、例えば入館者が来て非常に利益があるとか、隣のようこそ館で買い物をたくさんしてくれるとか、バスマナーが来るとか、そういう地域の活性化になってないですね。あわせて青谷町地内のいろんなところ、例えば和紙の里の方を見てもらったり、青谷のいいところをいろいろ経験してもらったり、先ほど言われた宿泊でもしてもらって、観光客が地域の雇用とか産業につながるような、そういうことになれば本当にいいのですが、まだそこまで行ってないのです。発掘途上だということと、やはり展示の施設が十分整ってないという点があります。ああいうところを一つの拠点に考えて、地域の経済に潤いを与えるような、例えば上寺地の出してきた弥生時代の文物をお土産などにつくりかえたりするとか、いろんな工夫ができるはずですから、地域の経済活動に結びつけるようなことができれば非常にいいと思います。

まだその段階まで至っていないのは、我々の努力の不足もあると思います。前は古代米とかああいうのをつくったりして、遺跡がそういう特産品づくりにもつながっていたこともありますので、また、県や総合支所の地域振興課ともいろいろ相談をしながら、地域のかたにいろんな意味で活躍の場といいますか、地域の皆さんのいろんなアイデアを生かすようにしたいと思います。

(地元意見)

もう発掘はこれぐらいにして、これ以上は後の世代に、ここの辺を掘ったらこういうものが出るよということで、貯金しておいてもいいと思うのですよ。

(竹内市長)

お気持ちもわかってきましたが、活用するにも、いま計画立てているところあたりはきちんとやらないと。やはり国の重要な位置づけを得たり、いろんな支援を得たりする、そういう計画でいまやっていますので、中途半端にやめるのも考え物だと思います。

8 市長あいさつ

きょうは中郷地区の皆さんに、こうして地域の課題を中心に、いろいろお話を伺いながら意見交換ができました。まだまだ自分も言いたかったというかたもたくさんおられると思いますが、熱心なご議論をいただきました。いろいろな個人でのご見解は、また市長への手紙という制度もあります。必ず返事を書いていますので、ぜひお寄せいただきたいと思います。

中郷地区については12の集落がありまして、地域の事情もあろうと思います。先ほどこの地域の人の気質についてちょっと述べておられましたが、中の郷というか、海でも山でもない真ん中あたりという感じで、全体としては位置づけられるのですよね。そういうことで、何かかえってゆったりしておられる部分もあるのかもしれない。世の中、確かに高齢化も進んで厳しい状況もあります。過疎対策のところで佐治とかいろんなどころの例を挙げていましたが、積極的に何かうまく当てることはできないだろうか。一番考えられるのはビワの葉のビワ茶だと思うのです。あれが非常に健康にいいと言われているのですが、我々鳥取市民もあまりよくは知らないし、全市に行き渡っているようにも思えないということです。鳥取市内広しといえども、ビワの産地は中郷の絹見とか、2つの集落しかほとんどないわけです。ああいうものを製品化して広く売っていかとか、ビワの葉とか何かを使ったものをつくられるとか、ここならではの起死回生策を考えてみるようなことはどうなのだろうかと思っています。ビワよりこんなものがあるよというのがあれば、またぜひそれを出していただきたいと思います。いろいろ人材がそろっている中郷地区のように思いますので、それぞれのかたが少し、何人かで力を合わせるとか、自分たちのこういう思いを形にしてみようとか、そういうことをぜひ考えていただけたらと。そのときには総合支所がちゃんと相談に乗ります。乗らなかつたら私に言ってきてください。しっかり乗ってよという話はしたいと思います。支所長さんも中郷地区ですよね、この近くだというように聞いています。だから、ここでしっかり頑張ろうということにさせていただきたいなど。我々も応援しますから。ということで締めくくらせていただきたいと思います。きょうは遅くまで大変ありがとうございました。